

# 「こころ」あふれる支え合い



①昭和60年代から平成、現在へと市社会福祉協議会が校区社会福祉協議会と連携して進めてきた取組みが「小地域ネットワーク活動」です。

昭和62年にふれあいの会第1号となる「ふれあいさぎなみの会」(西国分)が発足。平成7年までには旧久留米市内27校区全て(当時)に「ふれあいの会」が組織されました。



②ふれあいの会は、高齢者の自宅に、ボランティアが定期的に訪問します。安否確認、孤独や孤立死の予防、福祉サービスへの橋渡しなど、住民に最も近いセーフティネットの役割を担っています。



③ふれあいの会の訪問活動の中で、高齢者の孤食・偏食の問題が浮かび上がってきました。『手作りの食事を、みんなで一緒に楽しく食べる場があれば』という声が集まり、ふれあい食事サービスが始まりました。この事業は高齢者にはもちろん、ボランティア自身の活力にもなり、大変喜ばれる事業のひとつとなりました。



④食事サービスを実施する中で会場まで遠くて行けないという人も出てきました。『もっと身近な場所で集まりを』という声が集まり、ふれあい・いきいきサロンが展開されるようになりました。歩いて行ける範囲に、定期的に集まれる場所があることで、そこが居場所となりました。